

実績報告書での「事業成果」の書き方

助成金を交付された団体にとって、助成金をどのように活用し、どのような成果を上げることができたのかを助成先に示す意味で「報告書」の提出は必ず必要となります。

また、助成金の有無に関わらず、社会から信頼を得、社会に向けて活動を発信していくためには、活動の透明性を証明し成果をアピールしていくためのツールとして「報告書」の作成は欠かせません。

ただ、報告書を作成していく過程において、「どのように成果を書いたらよいか分からない」という声をよく耳にします。

「成果」をどのように捉えたらよいか、やまぐち県民活動支援センターの伊藤彰センター長から中間報告会でアドバイスをいただきました。



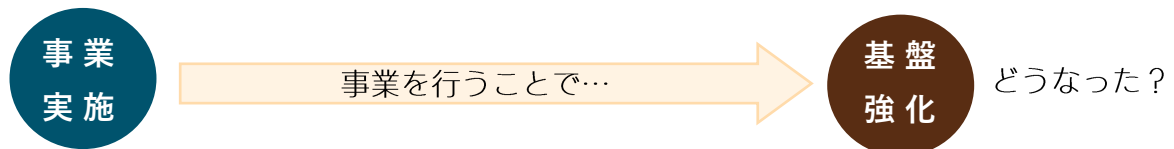
成果は **定量評価**（数字であらわせるもの）
定性評価（数字であらわせないもの）の2つで表現することができます

① 自立支援「ゆめ」プログラムの団体

※以下、伊藤センター長作成資料から要点抜粋

ポイント1

○事業の目的は「活動の立ち上げ」や「自立」なので、事業を行うことで団体の基盤強化にどうつながったかを中心に成果を捉えよう



ポイント2

○「結果」（事業を実施して生じたこと・状況）と「成果・効果」（事業後に残ったこと・もの）の両方を記入しよう

	着目点	結果（指標の例）	成果・効果（指標の例）
ヒトに 着目 して	利用者	イベント参加者〇名	イベント契機の入会者〇名
	協力者	単発ボランティア〇名	ボランティアリピーター〇名
	連携先	同種団体との連携	異なるセクターとのつながりができた
	担い手	△サポーター研修受講者〇名	△サポーター研修全受講者〇名
	スタッフ	寄附集めの経験多少	クラウドファンディング経験済
モノ に着目 して	オフライン広報	団体リーフレット〇枚作成・配布	団体リーフレットの原本データ完成
	オンライン広報	団体HP作成	団体の情報発信基盤稼働
	運営経験	イベント〇回開催	イベント運営の内部マニュアル作成
	問合せ対応	個別の対応情報の記録	よくある相談の回答集作成（FAQ）

※事業の中心スタッフ以外のメンバーもその後に活用できるモノ

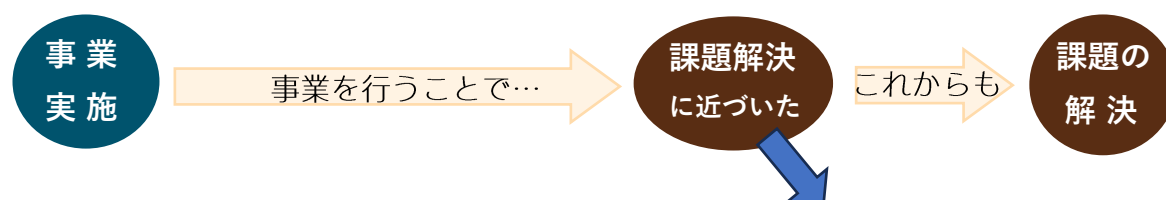
② 課題解決支援「はな」プログラム・③若者チャレンジ応援事業 の団体

ポイント1

○事業の目的は「地域の課題解決」なので、事業を行うことで課題の解決にどのようにつながったかを中心に成果を捉えよう

ポイント2

○「結果」（事業を実施して生じたこと・状況）と「成果・効果」（事業後に残ったこと・もの）の両方を記入しよう



着目点	結果（指標の例）	成果・効果（指標の例）
普及啓発	P R 動画作成、配信 ○本	動画視聴件数 ○件
ツール作成	作成したツールの配布○カ所	「ツールを参考・活用した」回答率○%
まちづくり	複数世代交流イベント参加者○名	多世代交流の別企画が新たに発生
まちづくり	S N S でまちの魅力情報発信○回	S N S のアクセス件数、問い合わせ件数
まちづくり	イベント参加者 ○名	地域来訪リピーター ○名
環境保全	里山整備のイベント参加者○名	保全に携わる住民・市民が増加○名増
子育て	学習会・交流会の参加者○名	「子育ての悩みが軽減した」回答率○%

↓
主催者側がコントロールできる
(自分達のやり方次第である程度予測がつく)

↓
主催者側がコントロールできない
(結果から派生するもので予測がつかない)

〈例〉 成果の捉え方

課題	事業	結果	成果・効果	解決
会計・決算 処理に不安 な団体が多い	会計セミナー及び 事後フォロー アップを実施	①セミナーに参加した 団体数計○団体 ②セミナーに参加した 支援者数計○名 ③フォローアップ○ 団体	①セミナー参加直後のア ンケートで理解度○% ②セミナー半年後のアン ケートで定着度○% ③参加団体による継続的 なセミナー実施の動き	多くの団体が適 正に会計を実施

◆指標の具体例参考：情報サイト「社会的インパクトイニシアチブ」内、『アウトカム指標一覧』

https://simi.or.jp/tool/outcome_indicators_db